

法話概略【芦田愛菜さんの「信じる」について考える】

今日は七夕。星がキレイに見えるであろう快晴ですね。星つながりというのも強引ですけども、今日は、一昨年映画上映された「星の子」という映画がありましたが、この完成報告イベントで主演を務めた芦田愛菜さんが、「信じる」ということについて、次のような深い感性で語っておりましたのでご紹介致します。

『「信じる」ということについて』

『その人のことを信じようと思います』っていう言葉って結構使うと思うんですけど、『それがどういう意味なんだろう』って考えた時に、その人自身を信じているのではなくて、『自分が理想とする、その人の人物像みたいなものに期待してしまっていることなのかな』と感じて

「だからこそ人は『裏切られた』とか『期待していたのに』とか言うけれど、別にそれは、『その人が裏切った』とかいうわけではなくて、『その人の見えなかった部分が見えただけ』であって、その見えなかった部分が見えた時に、『それもその人なんだ』と受け止められる、『揺るがない自分がある』というのが『信じられる事なのかな』って思ったんですけど…」

「でも、その揺るがない自分の軸を持つのは凄く難しいじゃないですか。だからこそ人は『信じる』って口に出して、不安な自分があるからこそ、成功した自分だったりとか、理想の人物像だったりにすぎたいんじゃないかと思いました。」

〈映画『星の子』の完成報告イベントより〉

どうお感じだったでしょうか？ 其々感じる場所がおありかと思いますが、私は、相手のことも、自分のことも深い所で信じていこうとする深い感性なのだと思えました。

このように実践することはかなり難しいことですが、私自身の見方に照らして考えてみますと、同じものを観ていたり、同じ人に会っていても、自分の心の状態や置かれている環境の変化によって、良くとれる時と悪い感情を懐く時と様々その時々で変化して起こってくるものです。その自分自身の心の揺れも丸ごとひっくり返して、そんな未熟な自分自身も「許し・認めて・尊んで」いくところに、この「信じる」という感性が深まっていくのだと私は承って読みました。どうか、最終的にご自分を尊んでいきましょう、今日の自分から信じて参りましょう。

その他連絡事項

- ① 本日面会が2組あります。ショートの方もいらっしゃるので、急きよ、今日の面会場所は「第2事務所」に移し、換気をしながら使用したいと思います。
- ② K堂さん(訪問理髪店)がきます。こちらはせせらぎホールで実施いたします。
- ③ 親睦会からです。6月23日付のコロナ対策会議にもありましたが、職員の行動制限も解除と成っています。第7波の懸念も出ておりますが、まずは、各部署・各ユニットの懇親を、感染対策を講じながら進めて欲しいと思います。親睦会からの助成金も考えておりますので、ぜひ懇親の場を創っていきましょう。ちなみに事務は7月21日に開催予定としております。
- ④ 蜂の巣が光寿苑にもある等、蜂の目撃情報が寄せられています。町の桜の木にも巣が作られているので、こちらの方は、湯本地区の方をお願いして、本日、対処して頂くところです。

【法話＝光寿会理事長、①②＝生活課長、③④＝総括課長】